

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	臨床実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	第2校舎附属治療所
担 当 教 員	河上修・富士暁也・仲村剛・岩村一成・澤卓実・林了大	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
臨床現場における柔道整復師の役割、医療面接から施術までの知識と技術を習得する						
《成績評価の方法と基準》						
1.レポート(20%) 2.授業態度と参加度(80%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版						
《授業外における学習方法》						
シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にできるように。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床現場における柔道整復師の役割を認識し、医療面接から施術までの知識と技術を習得すること						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	臨床実習の目的・目標の概説説明		柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション				
第2回	授業を通じての到達目標	柔道整復師としての倫理を理解する		柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと	
	各コマにおける授業予定	柔道整復師としての倫理-1				
第3回	授業を通じての到達目標	柔道整復師としての倫理を理解する		柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと	
	各コマにおける授業予定	柔道整復師としての倫理-2				
第4回	授業を通じての到達目標	患者との接し方を理解する		柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと	
	各コマにおける授業予定	患者との接し方-1				
第5回	授業を通じての到達目標	患者との接し方を理解する		柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと	
	各コマにおける授業予定	患者との接し方-2				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者との接し方を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	患者との接し方-3		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	施術録の作成を実施し内容を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	施術録の作成-1		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	施術録の作成を実施し内容を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	施術録の作成-2		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	施術録の作成を実施し内容を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	施術録の作成-3		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	医療事故・過誤の防止を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	医療事故・過誤の防止-1		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	医療事故・過誤の防止を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	医療事故・過誤の防止-2		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	医療事故・過誤の防止を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	医療事故・過誤の防止-3		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	医療事故・過誤の防止を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	医療事故・過誤の防止-4		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	医療事故・過誤の防止を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	医療事故・過誤の防止-5		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-1		

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	臨床実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	第2校舎附属治療所
担 当 教 員	河上修・富士暁也・仲村剛・岩村一成・澤卓実・林了大	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
臨床現場における柔道整復師の役割、医療面接から施術までの知識と技術を習得する						
《成績評価の方法と基準》						
1.レポート(70%) 2.授業態度と参加度(30%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版						
《授業外における学習方法》						
シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にできるように。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習は実際の患者さんを想定して、卒業後の臨床現場で必要となる知識を付けることを目標としています。実習時間内では不明な点があれば、時間外でも質問を受け付けます。自分で臨床現場に立つことを想定して実習に臨んでいただき、不明な点や自分に足りない知識をぜひ見つけて質問して下さい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと	
	実習形式	各コマにおける授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-2			
第17回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと	
	実習形式	各コマにおける授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-3			
第18回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の誘導を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと	
	実習形式	各コマにおける授業予定	患者の誘導-1			
第19回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の誘導を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと	
	実習形式	各コマにおける授業予定	患者の誘導-2			
第20回	実習形式	授業を通じての到達目標	接骨院業務を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと	
	実習形式	各コマにおける授業予定	附属治療所補助-1			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	実習形式	授業を通じての到達目標	接骨院業務を理解する	¥柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	附属治療所補助-2		
第22回	実習形式	授業を通じての到達目標	接骨院業務を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	附属治療所補助-3		
第23回	実習形式	授業を通じての到達目標	今期における治療所実習を振り返り気づきを得る	¥柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第3版	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	附属治療所実習振り返り		
第24回	講義実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第25回	講義実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第26回	講義実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第27回	講義実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第28回	講義実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第29回	講義実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第30回	講義実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	臨床実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	第2校舎附属施術所
担 当 教 員	澤卓実	実務経験と その関連資格	専科教員(平成22年～現在に至る)、認定実技審査員(平成29年:整復実技) 講道館柔道初段(平成29年)、附属接骨院(平成19年～平成26年:柔道整復業務に従事)			
《授業科目における学習内容》						
1年生からの継続目標となるが、卒業後の臨床に必要な技術と知識を身に付けることを最終目標とする。 内容は附属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身に付ける。						
《成績評価の方法と基準》						
出席評価:80% レポート評価:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版						
《授業外における学習方法》						
シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習は実際の患者さんを想定して、卒業後の臨床現場で必要となる知識を付けることを目標としています。実習時間内では不明な点があれば、時間外でも質問を受け付けます。自分で臨床現場に立つことを想定して実習に臨んでいただき、不明な点や自分に足りない知識をぜひ見つけて質問して下さい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版		
		各コマにおける授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-4			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-5			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-6			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-7			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-8			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	医療機関等との連携理解でき実践できる	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	医療機関等との連携-1		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	医療機関等との連携理解でき実践できる	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	医療機関等との連携-2		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	医療機関等との連携が理解でき実践できる	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	医療機関等との連携-3		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-1		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-2		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-3		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-4		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-5		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者への指導を理解し実践できる	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	患者への指導-1		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者への指導を理解し実践できる	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	患者への指導-2		

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	臨床実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	第2校舎附属施術所
担 当 教 員	澤卓実	実務経験と その関連資格	専科教員(平成22年～現在に至る)、認定実技審査員(平成29年:整復実技) 講道館柔道初段(平成29年)、附属接骨院(平成19年～平成26年:柔道整復業務に従事)			
《授業科目における学習内容》						
1年生からの継続目標となるが、卒業後の臨床に必要となる技術と知識を身に付けることを最終目標とする。 内容は附属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身に付ける。						
《成績評価の方法と基準》						
出席評価:80% レポート評価:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版						
《授業外における学習方法》						
シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にできるように。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習は実際の患者さんを想定して、卒業後の臨床現場で必要となる知識を付けることを目標としています。実習時間内では不明な点があれば、時間外でも質問を受け付けます。自分で臨床現場に立つことを想定して実習に臨んでいただき、不明な点や自分に足りない知識をぜひ見つけて質問して下さい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術を理解する	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-6			
第17回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術を理解する	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-7			
第18回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術を理解する	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-8			
第19回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術を理解する	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-9			
第20回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術を理解する	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-10			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	実習形式	授業を通じての到達目標	KYTシートを用いて危険予知を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	KYT:危険予知トレーニング-1		
第22回	実習形式	授業を通じての到達目標	KYTシートを用いて危険予知を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	KYT:危険予知トレーニング-2		
第23回	実習形式	授業を通じての到達目標	KYTシートを用いて危険予知を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	KYT:危険予知トレーニング-3		
第24回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第25回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第26回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第27回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第28回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第29回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第30回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	臨床実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	附属治療所・外部接骨院
担 当 教 員	河上修・福土暁也・仲村剛・岩村一成・澤卓実・林了大	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>1年生からの継続目標となるが、卒業後の臨床に必要となる技術と知識を身に付けることを最終目標とする。内容は附属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身に付ける。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>出席評価:80% レポート評価:20%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>臨床実習は実際の患者さんを想定して、卒業後の臨床現場で必要となる知識を付けることを目標としています。実習時間内では不明な点があれば、時間外でも質問を受け付けます。自分で臨床現場に立つことを想定して実習に臨んでいただき、不明な点や自分に足りない知識をぜひ見つけて質問して下さい。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第24回	実習形式	授業を通じての到達目標	多職種連携(IPW)ワークを通じてIPWを理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版		
		各コマにおける授業予定	多職種連携(IPW)ワーク-1			
第25回	実習形式	授業を通じての到達目標	多職種連携(IPW)ワークを通じてIPWを理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	多職種連携(IPW)ワーク-2			
第26回	実習形式	授業を通じての到達目標	多職種連携(IPW)ワークを通じてIPWを理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	多職種連携(IPW)ワーク-3			
第28回	実習形式	授業を通じての到達目標	多職種連携(IPW)ワークを通じてIPWを理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	多職種連携(IPW)ワーク-4			
第29回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習に関する注意事項や心構えを理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	外部実習 事前研修-1			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第30回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習に関する注意事項や心構えを理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	外部実習 事前研修-2		
第31回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	外部実習-1		
第32回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	外部実習-2		
第33回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習の振り返りを実施し次回実習に向けての内容を整理する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	実習振り返り-1		
第34回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習の振り返りを実施し次回実習に向けての内容を整理する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	実習振り返り-2		
第35回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の臨床的施術を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の臨床的施術-1		
第36回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の臨床的施術を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の臨床的施術-2		
第37回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	外部実習-3		
第38回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	外部実習-4		
第39回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習の振り返りを実施し次回実習に向けての内容を整理する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	実習振り返り-3		

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	臨床実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	附属治療所・外部接骨院
担 当 教 員	河上修・福王暁也・仲村剛・岩村一成・澤卓実・林了大	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
1年生からの継続目標となるが、卒業後の臨床に必要となる技術と知識を身に付けることを最終目標とする。内容は附属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身に付ける。						
《成績評価の方法と基準》						
出席評価:80% レポート評価:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版						
《授業外における学習方法》						
シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習は実際の患者さんを想定して、卒業後の臨床現場で必要となる知識を付けることを目標としています。実習時間内では不明な点があれば、時間外でも質問を受け付けます。自分で臨床現場に立つことを想定して実習に臨んでいただき、不明な点や自分に足りない知識をぜひ見つけて質問して下さい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第40回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習の振り返りを実施し次回実習に向けての内容を整理する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	実習振り返り-4			
第41回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の臨床的施術を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の臨床的施術-3			
第42回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の臨床的施術を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の臨床的施術-4			
第43回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	外部実習-5			
第44回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	外部実習-6			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	臨床実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	前期 火曜日・2限目	教室名	第2校舎附属治療所
担 当 教 員	河上修・川村智広・林了大	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
付属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
1.レポート(20%) 2.授業態度と参加度(80%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料 柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版						
《授業外における学習方法》						
シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床現場における柔道整復師の役割を認識し、医療面接から施術までの知識と技術を習得すること						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	施術所の衛生管理について理解できる	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと	
	実習形式	各コマにおける授業予定	施術所の衛生管理と医療面接について			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	医療面接について理解できる	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと	
	実習形式	各コマにおける授業予定	施術所の衛生管理と医療面接について			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	固定法を理解し、実施できる	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと	
	実習形式	各コマにおける授業予定	キャストライト(ギプス)を用いた固定法			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	固定法を理解し、実施できる	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと	
	実習形式	各コマにおける授業予定	キャストライト(ギプス)を用いた固定法			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	固定法を理解し、実施できる	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと	
	実習形式	各コマにおける授業予定	厚紙副子を用いた固定法			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	固定法を理解し、実施できる	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	厚紙副子を用いた固定法		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	施術の手法を理解する	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	診察(施術)導入(手法)		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	施術の手法を理解する	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	診察(施術)導入(手法)		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	カルテ記載ができるようになる	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	カルテ記載の概要・演習		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	カルテ記載ができるようになる	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	カルテ記載の概要・演習		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	保険制度について理解できる	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	保険制度概要(制度および法規)		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	保険制度について理解できる	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	保険制度概要(制度および法規)		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	保険制度について理解できる	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	保険制度概要(計算方法)		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	保険制度について理解できる	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	保険制度概要(計算方法)		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	紹介状などの記載ができるようになる	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	紹介状・礼状の記載方法演習(高診用)		

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	臨床実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時間	前期 火曜日1・2限目	教室名	第2校舎附属治療所
担 当 教 員	河上修・川村智広・林了大	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
付属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
1.レポート(20%) 2.授業態度と参加度(80%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料 柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版						
《授業外における学習方法》						
シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床現場における柔道整復師の役割を認識し、医療面接から施術までの知識と技術を習得すること						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	紹介状などの記載ができるようになる	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと	
		各コマに おける 授業予定	紹介状・礼状の記載方法・演習(高診用)			
第17回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	実習を通して、施術の理解を深める	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと	
		各コマに おける 授業予定	診察(施術)実習①			
第18回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	実習を通して、施術の理解を深める	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと	
		各コマに おける 授業予定	診察(施術)実習①			
第19回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	実習を通して、施術の理解を深める	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと	
		各コマに おける 授業予定	診察(施術)実習②			
第20回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	実習を通して、施術の理解を深める	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと	
		各コマに おける 授業予定	診察(施術)実習②			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師として必要な心得を理解する	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	臨床現場に出るために柔道整復師として必要な心得		
第22回	実習形式	授業を通じての到達目標	これまでの臨床実習の振り返りを行い気づきを得る	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	振り返り		
第23回	実習形式	授業を通じての到達目標	これまでの臨床実習の振り返りを行い改善案を策案する	PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	振り返り		
第24回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第25回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第26回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第27回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第28回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第29回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第30回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			